

# 平成 30 年度 社会福祉法人正廉会 事業計画

## 法人の基本理念

和み  
創意工夫  
個人の尊厳  
ありがとうの心

- 個人の尊厳を守り、和みのある温かな施設運営をします。  
入居者・利用者の人としての尊厳を保つと共に、健康で和やかな生活を支援することにより、入居者・利用者本位の良質な高齢者介護サービスを提供します。
- 入居者・利用者が生活の場として快適に過ごせるよう、全職員が創意工夫します。  
入居者・利用者が生活の場として快適に過ごせるよう、入居者・利用者の心身状態等の特性に合わせた質の高い介護、支援サービスの提供を心掛け、入居者・利用者が和やかな気分を感じることができるよう創意工夫します。
- いつでも・どこでも・だれにでも「ありがとうの心」で、笑顔を絶やさないようにします。  
明るい家庭的な雰囲気を大切にして、常にだれに対しても挨拶と笑顔とありがとうの言葉があふれている「安全、安心、思いやり、温かみ」のある施設とします。
- ◎ 平成 30 年度は特に「和み」への取組を強化した事業運営を行います。  
和むことにより笑顔があふれ、入居者・利用者どうし、入居者・利用者と職員、職員間のコミュニケーションが良好で、人と人とのふれ合いが豊かな、穏やかで優しい施設とします。

## 法人の事業方針

平成 29 年 4 月に改正・施行された社会福祉法人に基づき、社会福祉法人にはより一層、社会情勢や経営環境及び地域のニーズの変化に的確に対応していくことが求められています。

社会福祉法人の果たすべき社会的役割を遵守し、ガバナンスに基づいた経営戦略をきめ細かく構築した経営力の強化に取り組んでいくと共に、地域及び関係機関との連携とコンプライアンス（法令の順守）の徹底により事業の透明性を確保して、厳しさを増す経営環境に対処していかなければ生き残れない時代を迎えています。

事業運営の安定的維持を図っていくためには、介護職員の確保、充実を急ぐと共に、増え続ける人件費を賄うため、新たな事業収入の創出に向けた新規事業の検討を始める。新たに事業を創設するに際しては、社会福祉法人という制約と同時に、創設・運営資金の確保も重要であり、事業内容と共に、それらに対応していけるか否かも法人事務局で検討していく。

## ＝重点施策＝

1. 平成 30 年 4 月から介護報酬の改定が予定され、特養、ショートステイの介護報酬は若干の増加となる反面、一般型デイサービスの介護報酬は引き下げとなる。

デイサービス、訪問介護、居宅介護支援においては総合事業が導入されて 1 年が経過したが、総合事業は介護保険の対象外のためデイサービス、訪問介護、居宅介護支援の事業収入はそれぞれ減少を余儀なくされ、その分今まで以上に経営力の強化が求められる経営環境となっている。

収入減を最小限に食い止めて、収入増に向けた経営企画力の強化を図ると共に、事業・事務経費の削減に向けて経費項目を一つ一つ見直しし、契約の更改などにより支出を少しでも減少させる工夫等の取組を一層強化した事業経営を行っていかねばならない。

収入増へ向けた取組策の一つとして、認知症型デイサービス利用者の確保と増加に向け、他の同様事業所と差別化したサービスを創出し、デイサービス海山荘ならではの特徴と魅力ある認知症型デイサービスの実現を急がなければならない。

また、一般型デイサービス利用者の確保と増加に向けた対策も急務であり、認知症型デイサービスと同様に、デイサービス海山荘ならではの特徴と魅力あるデイサービスの提供を実現していかなければ利用者の増加は果たせない。

2. 海山荘の建物及び設備等は開設から 13 年以上経過し、補修・更新の時期が次々に到来している。補修・買換費用が膨大になると見込まれるものの、それらに対応する資金は限られているため、入居者・利用者へのサービス並びに施設運営に支障が生じないよう優先順位を決めて補修・更新を行っていく。

3. 良質な介護サービスを提供し信頼される施設運営を行っていくためには、職務能力並びに資質の高い人材を確保し、安定した職員体制を堅持していくことが必須である。

しかしながら、介護職員の確保が非常に厳しい社会情勢となっている中、広告媒体やインターネットを利用した職員募集広告を駆使しても介護職員の確保がままならない状況となっている。また職員からの友人、知人の紹介も厳しい状況となっている。

職員の確保が難しい状況においては、介護現場においては正職員、非常勤職員の配置を見直して、必要な時間帯に必要な人材を投入するという効率化を図り、職員不足を補う工夫を行っていかねばならない状況にある。

また、職員確保の一助として、子育て中の介護経験者の雇用促進に向けて、既存の保育所等と連携した「託児所、保育所」の共同運営或は当法人独自の施設運営を検討していく。

更には、介護職員不足に対して、外国人労働者の採用を前向きに検討していかなければならない時期となってきている。

## 事業所別 事業計画書

### 介護老人福祉施設

#### 特別養護老人ホーム海山荘・地域密着型特別養護老人ホームすいせんの郷

##### 1. 重点目標

(1) 法人の基本理念の中の「和み」への取組を主とした施設運営を行う。

- 入居者、家族をはじめ、施設に係る皆様に対して、気遣い・心遣いを忘れず、いつも笑顔で和みがあり親しみのある応対をする。
- 入居者の立場に立った良質な介護サービスの提供を心がけ、「安全、安心、思いやり、温かみ」のある施設を目指し、入居者・家族・地域から信頼される施設とする。
- 新しい知識の習得や技術の向上ができるよう、研修・勉強会等、知識取得の機会を増やし、ケアの質の向上に繋げていく。認知症ケアの知識を深める企画等は継続して行う。
- ユニットケアを推進し、入居者が海山荘並びにすいせんの郷において「自分らしい生活」が実現できるよう、入居者一人ひとりの人権と生活を尊重し、入居者の心身状態等の特性に合わせた介護、支援を提供して、入居者が満足を感じることができる施設とする。
- ケアプラン（施設サービス計画）に基づいた介護サービスを提供し、入居者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、介護、援助、相談、機能訓練、健康管理を行う。
- 職員間の「ホウレンソウ」（報告・連絡・相談）を徹底し、各職種の連携を深めて協力し合える関係の維持に努めて、チームケアを確立する。
- 継続的にボランティアや介護等体験学生を受け入れ、地域支え合い活動等への協力を進め、施設の情報等を発信することで開かれた施設を目指し、地域住民との交流の促進を図る。

(2) 接遇マナーの向上に努める。

明るく家庭的な雰囲気大切に、入居者・家族・地域に好感を与える表情や言葉づかいや態度、清潔感のある身だしなみ、施設・ユニット・居室内の整理・整頓等により、和みのある、安心・安全・快適な施設運営を行う。

(3) 人材の確保

入居者・利用者に安心、安全を与え、思いやりを持った温かみのある介護サービスを提供していくのは介護職員であり、海山荘並びにすいせんの郷が入居者・利用者、家族及び地域から介護福祉施設としての信頼を得ていくためにも、入居者・利用者に快適な介護サービスを提供できる能力、資質を持った介護職員の確保に継続して取り組んでいく。

(4) 居室の空室期間を短くする。（稼働率のアップ）

介護報酬を少しでも多く確保する方策として、できる限り空室を作らないようにする。そのためには、入居希望待機者との連絡を密に行って、退居者が出たならば日を空けずに入居待機者ができるだけ速やかに入居していただくことや、入居者の日々の健康管理をきめ細かく行うことにより医療機関への入院を回避できるように看護体制を強化していく等、空室期間を短くし稼働率をアップすることにより事業収入の確保に努める。

## ショートステイ（短期入所生活介護）

### 1. 重点目標

- 「和みのある場所の提供」を大切にし、一人ひとりに合った「安心・安全・思いやり・温かみ」のあるサービスを考え、また利用したいと思っただけのサービスを提供していく。
- 居宅介護支援事業者（ケアマネージャー）との連携を緊密にして、新規に利用される利用者を定期的に利用してもらえよう創意工夫し、必要な時に利用していただける「海山荘のショートステイ」ということをモットーに、利用率 100%を目指す。

## デイサービス（通所介護、認知症対応型通所介護）

### 1. 重点目標

- 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の実施も含め、利用定員 50 名（一般型 30 名、認知症型 12 名、総合事業 8 名）のデイサービスの利用率は 70%以上（1 日当りの利用者数を 35 名以上）を目標とし、経営基盤強化に寄与する運営を目指す。
- 利用者を安定的に確保することを目標に、デイサービスの PR 情報をホームページ等で発信すると同時に、地域交流イベントにも積極的に参加・企画して実行する。
- 勉強会や研修に積極的に参加して、職員の介護技術や資質向上に努め、利用者・家族・地域から信頼されるデイサービスとなり、利用者の確保に繋げていく。
- 明るく和やかなデイサービスとして、利用者によるおやつ作りや職員の演芸などをはじめ、利用者が心身ともに楽しく過ごせるよう支援するとともに、利用者一人一人に寄り添う介護を行う。

## 訪問介護（ホームヘルプサービス）

### 1. 重点目標

- 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の実施を含め、利用者へ継続的な介護サービスの提供・支援を行い、信頼関係の構築を大切にして事業収入の増加を図る。
- 利用者・家族ならびに居宅介護支援事業所との信頼関係を大切に、事業所内勉強会や外部研修等により職員の知識・技能と資質の向上を図り、誠実かつ質の高い介護サービスの提供を行う。

## 居宅介護支援事業所

### 1. 重点目標

- 利用者・家族の思いや意向を確認した上で「利用者が望むその人らしい生活」の実現性を高め、信頼され喜ばれる介護サービス計画の作成を心がける。
- 地域から信頼される居宅介護支援事業所を目標に、地域の介護サービス事業者や医療関係機関等との連携を密にして利用者への支援活動を行い、さらに質の向上を図るため、積極的にケアマネ連絡会や事例検討会、研修会に参加する。